

15市町村女性職員ヒアリング結果 (詳細版)

15市町村女性職員ヒアリング



目的:ご自身の経験、ご家族や近隣の方から見聞きしたこと、役場の仕事を通じて 住民からお聞きしたこと等を踏まえ、女性の観点、生活者の観点から 生活課題を挙げてもらうため。

日時・対象者:※年代、既婚/独身等、多様な方を市町村よりご推薦いただいた。

5月8日 : 田村市(6名)、葛尾村(4名)

5月9日 : 南相馬市(6名)、飯舘村(5名)

5月15日:富岡町(5名)、楢葉町(3名)、大熊町(2名)

5月16日:双葉町(3名)、川内村(4名)、新地町(8名)

5月20日:いわき市(5名)、広野町(4名)、浪江町(5名)

5月21日:相馬市(5名)、川俣町(4名)

<番外編>F-REI女性職員ヒアリング

5月20日:5名ヒアリング

ヒアリング対象者合計:74名



田村市





新地町

1 震災後の社会構造の変化

- ①世帯分離の進行(核家族化)
- ②共働きの進行
- ③生活圏域の拡大



※日本全国のトレンドもあり、必ずしも100%震災起因ではない。

1-① 世帯分離の進行

→参考データ37~38ページ 15市町村の人口と世帯数の推移



震災前は多世代同居や近居が多かったが、

避難を機に世帯分離が進行。

·富岡町:

震災後、避難先が分かれた多世代家族も多く、町内に帰還する人も時期が異なったりする こともあり、世帯分離が進んでいる感がある。

·南相馬市:

小高では、震災前3世代で住んでいたが、避難先で入れる住宅の関係で分かれて避難し、避難指示解除後をそのまま別世帯になり、高齢者のみの世帯となったケースがある。

·飯舘村:

震災前は親と同居している人が多かったが、震災当時の避難を機に世帯分離が進み、 負担が増えている人も増えたのではないか。

·飯舘村:

65歳以上高齢者2人暮らしで帰村する人が多い。介護問題が生じ、通院できない、どうしようという相談が包括センターに来ることも多いが、遠方に住む子供が親のことを心配しないようになってきていることは問題だと感じる。家族関係が希薄になってきている。

·広野町:

高齢者を中心に先に帰還しており、高齢者が多い町になっている。 高齢者の方にもう少し目を向けてほしい。余生を過ごす場所としては不便。



全国的な傾向かとは思われるが、共働きが進んでいる。

·川内村:

パートも含めれば、川内村の女性はほとんど働いている。 30~40分程度で車で通勤できる範囲で、村内のほか、田村市、富岡町、広野町、 楢葉町あたりで働いている。

·飯舘村:

パートも含めれば、共働き家庭が多い。 農業をやっていれば外で働かないケースもあったが、営農再開がまだ完全でないことや、 避難により働き方が変わったことで、現在は女性も外で働くという構図が多い。 共働き支援に必要性を感じる。

·田村市:

共働きが増えている。

そのため、子供の数自体は微減しているものの、放課後児童クラブの利用者は増えている。

1-③ 生活圏域の拡大



避難の経験や、現在おかれている生活環境(買い物環境の不足等) により、通勤・買い物・通院等の生活圏域が広域化。

·南相馬市:

震災前、小高から車で30分かかる距離は遠いと思っていた。 避難していた約5年の間、相馬から原町に通った経験を経て、今は30~40分程度は長くないと感じている。

·浪江町:

震災前は浪江町内で全て事足りていたので、今と感覚は違った。 今は車で30分の距離は生活圏内。毎週南相馬へ買い出しに行っている。

·飯舘村:

震災前は、職員の多くは10分以内で通勤出来ていた。 避難により、30分以上かかるようになり長くなったと感じた。 通勤に40~50分かかるのは普通の感覚になってきたが、身体的な負担は大きい。

- 2 浜通り地域等での ライフステージごとの生活課題
 - 1乳幼児期

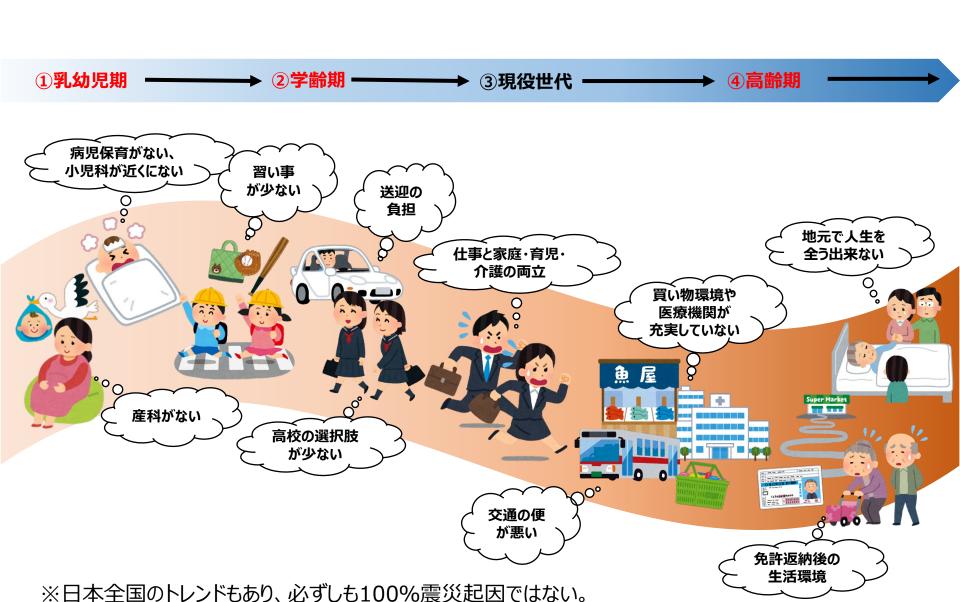
②学齢期

3現役世代





2. 浜通り地域等でのライフステージごとの生活課題



→参考データ**39**ページ 年齢階層別人口

○産科がない ※15市町村で産科があるのは南相馬市といわき市のみ。

·富岡町:

陣痛がきてから1時間かけて小名浜(いわき市)の産婦人科へ行ったのは不安だった。 次に出産する時、上の子どもをおいていく事が難しいことや夜中の場合どうするかが懸念。

·川内村:

出産は震災後は郡山、いわきが主。郡山へは1時間かかる。 数日前から入院するケースも多い。



〇保育園が不十分

·広野町:

こども園の定員が現在の実態に照らすと少なく、お断りするケースが年々増えてきている。 定員を元に施設面積や保育士の数が算定されているため、定員変更は容易ではない。最大の 課題は保育人材不足。

· 葛尾村:

村内に保育園がなく、幼稚園しかないため、3歳児からしか預かってもらえない。 子供が2歳児のため、田村市のこども園に預けている。 現在は共働きやひとり親世帯も多く、幼稚園や一時預かりでは不十分。

〇病児保育·病後児保育、ファミリーサポート制度がない又は不十分

・広野町:病児保育やファミサポはないため、仕事を休むしかない。

・相馬市・田村市:ファミサポ制度はあるが、あまり活用されていない。

·楢葉町:

ファミサポ事業が今年度立ち上がったが、担い手不足。預けられれば残業もできるので、残念。

〇小児科がない

・広野町:発熱した子供を1時間かけていわきの病院に連れて行くのは不安。

・飯舘村:近隣の病院までの移動距離が長いため、都度仕事を休んで通院するのが大変。

・川内村: 夜間小児がない。相談をオンラインで対応できないか。

・葛尾村:子供の予防接種のため、田村市の小児科に行く。

〇子ども用品や学用品等の調達が困難

・富岡町・広野町:お尻ふきや離乳食など、ベビー用品が近所で入手困難。

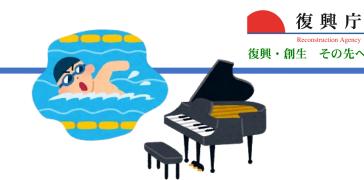
·相馬市·浪江町·富岡町:

こども園や学校から急に依頼される学用品等の調達が困難。 学校で一括購入して欲しい。



2-② 学齢期

→参考データ46ページ 15市町村の児童生徒数



〇習い事の選択肢が少ない、送迎が負担

·相馬市:

学ぶ場やきっかけが都会に比べると少ない。子供が体験できるコンテンツが少ない。 母親としては子供にいろいろな体験をさせたい。

·南相馬市·浪江町:

塾など習い事への送迎が負担。送迎ができないため、あきらめざるを得ない人もいる。

·富岡町·川俣町:

子供が希望するすべての習い事に通わせることができず、通う場合も送迎が必要となるため、時間的制約により土日に限られる。習い事の送迎タクシーアプリができるといい。

〇少人数学級のマイナス面(部活動が少ない、競争心欠如等)

·南相馬市:

震災後、児童生徒数が減少したため、子供は小1から中3まで1クラス10名程度で過ごした。 スポーツ少年団の活動がなく、部活等の選択肢も限られた。

児童数が少ないためか、競争心があまりなかったように感じる。

·相馬市·浪江町·大熊町·飯舘村:

中学に部活動がない又は種類がきわめて少ない。

→参考データ**47**ページ メタボリック・シンドローム、肥満度



○車での通学 →保護者の送迎負担、肥満等の健康課題

·南相馬市:

放射線の影響を心配してなのか、震災をきっかけに車で送迎する家庭が増えた。 親御さんの心配な気持ちは理解するが、肥満率も高いため、運動する機運を高めた方が良い のではないか。子供たちがおしゃべりをしながら通学できる地域になるといい。

・富岡町:

送迎バスがあるため、歩いて通学する子の方が少ない。県内でも著しく運動能力が低く、 肥満度も高かった。子供も通学時、歩かせた方が良い。歩きながらの登下校で学ぶこともある。

・飯舘村:

バスに乗る時間が、長い子は1時間から1時間半かかってしまい、学校活動が制限されてしまう。 帰宅時間の関係や友人宅も遠いため、帰宅後に友人と遊んだり、習い事や塾に行く時間が ない。早い子は6時台にバスに乗り、遅い子は19:00過ぎに帰宅となるケースもある。

・いわき市:

市内の中山間地域に住んでおり、 バスや電車に乗るにも停留所や駅まで車での移動が必要。 母親からは、子供の送迎があったから当時は専業主婦だったと言われた。



→参考データ39ページ 年齢階層別人口 46ページ 15市町村の児童生徒数



〇高校の選択肢が少ない、保護者の送迎負担

·相馬市:

普通科だと近隣含め3つあるが、学力が上のレベルになると福島市、仙台、私立を選ぶことになる。その場合通学に時間がかかるため下宿や寮を選択せざるを得なくなり、一緒に生活できない、親が一緒に引っ越す選択もある。

自分の子供も、私と夫が共働きで送迎対応が出来ないため、市内の高校に 進学した。学びたい子供たちが学べる環境、選べる環境を早く作りたい。

·富岡町:

震災前は双葉郡内に高校が複数あったが、今はふたば未来学園だけ。 部活や通学のために子供を遠くまで送迎することは難しく、高校の選択肢が 限られることは子供のために良くないと考えたため、郡山に住み続けている。 子供の教育面は親が一番気にかかるところである。

·広野町:

ふたば未来学園はカリキュラムも良く魅力的だが、通学や周辺の学習塾の環境も含めて総合的に利便性を勘案すると、高校はいわきの学校の方が良いと考える親も多いのではないか。

·田村市:

希望する高校に通いにくい。郡山の高校に進学した際、通学に2時間ほどかかるため、負担の少ない運動部を選択した。母親は私の進学時に送迎負担を考慮して転職した。高校生以上の世帯は子供も保護者も大変。教育の場の近接性に応じて経済的負担も違ってくるだろう。



→参考データ39ページ 年齢階層別人口



〇若者の居場所が不足

·相馬市·浪江町:

中高生向けの遊び場所、居場所がなく、時間を持て余してしまうようだ。若者に魅力的でない。

·南相馬市:

子供たちの世代からすると刺激がないと感じるのだろう。 自分の子はそのような環境に不満があり、仙台の高校に進学した。

〇親同士の関係が希薄

·浪江町·富岡町:

PTAはなく、保護者同士知り合う機会があまりないため、つながりが希薄。 仲が良いとはいえない。

·相馬市:

PTA活動など、保護者同士が会う機会がないとなかなか知り合えない。 こうしたことの積み重ねが将来的に引きこもり高齢者につながるのではないだろうか。

·大熊町:

保護者会、PTA共に現在は存在しない。 子育てに関して共有できる場所や人(子育てコミュニティ)が必要と感じる。







高齢の親の介護に直面した時、自身の生活がどうなるのか、将来について漠然と不安を感じる。

·川俣町:

自身が介護を受けるようになったときに誰に面倒見てもらえるか心配。子供に迷惑かけたくない。

・南相馬市:老々介護も増えている。

○移動販売や配食サービスがあるといい

·新地町·葛尾村:

隣に住む独居老人がコンビニでよく買い物している。家の近くまで来る移動販売があればそういった人にとって便利かもしれない。

·新地町:

独居老人向けの週1回配食サービスの対象範囲を2人暮らしにまで広げてほしい。

·飯舘村:

学校給食施設を利用して、老人ホームや独居老人への配達サービス等に活用することはできないか。



→参考データ44ページ 高齢者の単独世帯数の推移



〇高齢者の孤立や引きこもりが心配



·田村市:

70代以上の人がこの地域で何を楽しみに生きていくか、独居老人の人たちが社会と関われる にはどうしたらよいかと漠然と考えている。

震災前は消防団等でつながっていた人が、地域の人たちとの関わりを持つために、行政として どのような機会を作ってあげられると良いだろうか。

·相馬市:

公民館には、高齢者同士誘いあって乗り合いバスを利用して来る人もいる。若い時から仲間を作り、周囲とコミュニケーションをとっておくことが大切だと感じる。 できなかった人、苦手な人が引きこもりにつながるのだろう。

自分で仲間を作れない人へのサポートが必要と感じている。

·相馬市·富岡町:

周りに一日中誰とも話さない独居老人の方もおり、自宅の敷地が広すぎて手入れが大変とか、 家事も一人だと大変などという意見も聞いたことがある。健康のためにも外に出る機会が必要。

·川内村:

独居老人が増えている。村のサービスで保健師が巡回しているが、家々の場所が離れているため、軒数が少なくても巡回は大変だと聞く。

〇介護施設の問題

・いわき市:

数年前に看取った義理の母は、最後数か月は介護施設に入所した。 運良く入れたが、介護施設入所は難しい。 また、介護休暇が取りにくいことも課題。



·浪江町:

隣家で旦那さんが要介護だったが、奥様が介護疲れで大変そうだった。 介護施設のデイサービスに加えてショートステイやグループホームのような、多少リラックスできる ための施設が必要。

·飯舘村:

介護サービスは村内に事業所がないため、近隣市町村や避難先と連携しているが、そうすると、村の介護保険料も上がってしまう悪循環が生じている。

震災前のように地域のつながりがあれば、

介護サービスがなくても近所付き合いの延長で元気に過ごせたのではないだろうか。 そういった地域の力が低下していると感じている。

·川俣町:

医療機関、介護施設で働く人が慢性的に不足していると感じる。



3 その他 分野別課題

①交通分野

②医療分野



③買い物・レジャー分野

4住宅分野

※日本全国のトレンドもあり、必ずしも100%震災起因ではない。



〇常磐線の本数が少ない。また、よく止まる。

·富岡町·浪江町·相馬市:

常磐線は本数が少なく、不便。震災前から本数は少なかったが更に減った。 終電も早いので部活を早めに切り上げて先に帰らないと帰宅できない子もいる。 通勤にも適さない。



·相馬市·広野町:

常磐線が風により止まることが多い。子供が通学した後に止まった場合は車で迎えに行く。 ふたば未来学園は常磐線で通学する生徒が多いため、運休の影響で臨時休校になることが たびたびある。

・いわき市:

電車の時間含めライフスタイルに合わせたフレックス勤務ができるようになると良い。 役場でもフレックス制を導入すれば電車での通勤者も増えるのではないか。

〇バスは高価格であり、接続もよくない。

・川俣町:

川俣〜福島間のバス代が千円程度で福島〜仙台間と同等。 高校生は学割があるとはいえ家計に響く。子供の進学に合わせて引っ越した人もいる。

·川内村·大熊町:

電車の乗り換えや高速バスとの接続に不適切で、高齢者でもダッシュが求められる。 乗車後の接続も踏まえたルートや時間設定になることを期待。





〇タクシーが不十分

·富岡町:

夜遅くなると駅前にタクシーが待機していない。代行もないため、不便。

·川内村:

飲みに行きたいが帰りのタクシーがないことは致命的。また、来客時に観光でまわれる村内タクシーがあると良いのではないか。

·新地町:

町のタクシーは土日稼働していない。



·浪江町:

最近子供が自転車を使って友人と遊びに行くようになった。ダンプのような大型車も多いため親としては心配。車社会のため、運転している側も歩行者がいないと思い込んで運転している。

·川内村:

歩道が整備されていないことに加え、トラックの往来やスピードを出していることも多く、危険。 運転していても対向車は怖く感じる。道路はセンターラインがないところがほとんどだが、 高齢者や外から来た人はセンターラインがあると走りやすいのではないだろうか。

·南相馬市:

高齢者の運転も多く、危険。







〇市町村内の公共交通(デマンドバス等)の使い勝手がよくない

·相馬市:

ルート上であればどこからでも乗車可能だが、乗車率はかなり低い。 市民の希望にかなったルートになっておらず、また、自宅からルート上まで行くのが遠いと感じている様子。行く場所が決まっている点も高齢者は不便を感じている。

·広野町:

巡回バス利用者は1日10人程度しかいない。大きいバスである必要はなく、運行方法などに改善の余地がある。

·川俣町:

予約制デマンドタクシーは本数が少なく、使い勝手が悪いため、利用率は約40%。 利用者それぞれの自宅を回る乗合制のため時間がかかる。

·田村市·南相馬市:

事前予約が必要で、思いついた時に利用できないため、利用率が低い。

・いわき市:

ループのような小型電動モビリティの設置の可能性を模索できないか。

·浪江町:

スマモビはスマホでの利用者登録が必須のため、高齢者にはハードルが高い。

·川俣町:

高齢者のためにノンステップバスにするなど工夫が必要。



免許返納者など交通弱者問題 →家族による送迎の負担

- ·双葉町・田村市・川内村・新地町・相馬市・葛尾村: 車がないと生活範囲や出来ることが限定される。不便。
- ・相馬市・南相馬市・川俣町: 高齢の家族や自分が将来、免許返納したら足がなくなるため心配。



·新地町·相馬市:

高齢の家族の通院や買い物に送迎が必要だと、現役世代の負担が増えるだろう。

·飯舘村:

帰村した親の買い物のために避難先から車を出す現役世代は負担が増えているのでは。 震災前は多世代一緒に住んでいたので、現役世代が通勤時にバス停まで親を送るといった ことが出来ていた。

·相馬市·富岡町:

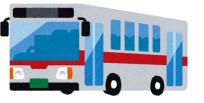
車社会で暮らしてきたため、高齢者の中には公共交通手段の乗り方が分からない人もいるのではないか。

·南相馬市·相馬市:

都会から来る移住者は車を運転しない人もいる様子。

·南相馬市:

生活保護を受給するときは車を持てない。交通弱者の人達が増えると大きな懸案。



→参考データ**48**ページ お達者度指数



〇対応できない診療科目があり、他市町村への通院が負担

·新地町·葛尾村·川俣町·浪江町·楢葉町:

対応できない診療科目については、他の市町村へ通院。

·川俣町:

福島市内や県立医大病院に通院するケースも多く、 時間があれば子供に送迎してもらえるが、通いにくいとの意見が高齢者からあった。

·大熊町:

町内に内科の診療所はあるが、眼科は隣町で受診することとなり、 歩く時間も含め合計 4 時間ほどかかった。

〇高度な医療環境がない

·相馬市:

高度な治療が受けられる医療機関がなく、処置が難しくて仙台に搬送されるケースもある。 搬送途中で亡くなった例もある。

・いわき市:

東京では、大病院やセカンドオピニオンの選択肢も多く、高度な医療環境があると感じた。 親戚が集まった時、いわきで大きい病気をしたら死ぬしかないと言われた。大きい病気を患う と、仙台や郡山の病院に行くように言われる。いわきで人生を全うできない。

·浪江町:

高齢者から、人生を生まれ故郷で全うできないことは寂しいと聞く。大きい病院は遠いので心配。

3-② 医療分野



〇土日・夜間に空いている医療機関がない

·双葉町·浪江町:

双葉郡内では週6日開いていない病院が多い。平日フルタイムで働いていると、その点は悩み。

·川俣町:

川俣病院では子供は休日診療してもらえないため不便。

·川内村:

祖母が夜間に倒れた際、病院が遠くて大変だった。



Oオンライン診療等デジタル化への期待

·富岡町·浪江町:

初診は町内の病院で受診し、その後の経過観察はオンライン診察で対応・薬の処方をしてもらえないだろうか。アトピーなど、薬が決まっているものは活用可能性がある。

いわき市・田村市:

ファストドクター (オンライン診療) 制度は使えると思った。いわきでも利用できると良いし、 認知度が増えると良い。山間部等では活用すれば利便性が高まる。

一方、高齢者には使いこなすのが難しいかもしれない。

・いわき市:

いわき市内の新しい病院ではデジタル化が進み、以前より待ち時間が短くなったと感じた。 民間の町医者(小さな開業医)でも受付業務等のデジタル化が進めば、生活水準が上がるのではないか。

3-③ 買い物・レジャー分野

→参考データ49~50ページ 買物環境に関するアンケート 地元購買率と買物流入出率



お弁当

〇買い物環境が不足している

・新地町: 生鮮食品があるスーパーが近くになく、不便。

·大熊町:

町内にスーパーがなく、隣町のスーパーを利用する人が多い。浪江町のスーパーを利用することもあるが片道30分ほどかかるため、選択肢があってないようなもの。

·葛尾村:

選択肢が少なく、思い立った時に買い物に行ける環境でない。

·双葉町·相馬市:

ちょっと醤油がきれたといった、ちょっとした買い物ができる店舗が家の周りになく不便。

·川内村·広野町:

弁当、総菜、デリバリーの店がない。仕事終わりに夕飯のおかずが買える環境が欲しい。 「今日はご飯作りたくないな」という時の逃げ道がない。

·浪江町·富岡町:

まとめ買いや生協に依存しているため、買い物をする際は予めリストを作るなど、 買い忘れがないようしっかりプランを立てる必要があることが大変。

·富岡町·大熊町·葛尾村:店舗の営業時間が短い。



3 - ③ 買い物・レジャー分野



Super Market

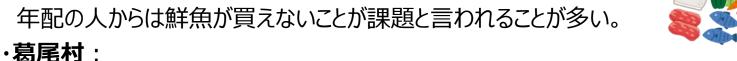
〇スーパーの品揃えがよくない、価格が高い

·富岡町·大熊町·浪江町·双葉町:

富岡のさくらモールや浪江イオンは酒、つまみ、揚げ物系が充実するなど、 品ぞろえが単身男性向け。野菜や魚など生鮮品の入手が難しく、価格も高い。

·広野町:

買物が不便。肉、魚、八百屋が1店舗ずつあると良い。 年配の人からは鮮魚が買えないことが課題と言われることが多い。



1人暮らしだが、食べきれる分だけの(少量小分けの)買い物がしづらい。

•富岡町:

子供世代は女子が多く、欲しいものは女の子が必要なものに集中するかもしれず、店舗の 品揃えとニーズにミスマッチが牛じている可能性がある。

〇配達区域の制限、配送の時間指定が出来ない

- ·南相馬市·浪江町·双葉町·広野町 : 配送時間の指定ができない地域があり、 日中の場合は仕事をしていると受け取れない。
- ·双葉町: 通販だと配達圏外のサービスもある。



3-③ 買い物・レジャー分野



〇気軽におしゃべりする居場所となるような飲食店がない

・相馬市・富岡町・広野町・川俣町・葛尾村・飯舘村: 女性や子連れが入りやすい、ファミレスやカフェなど、 安くて気楽に集まれる飲食店がもっとほしい。

・川俣町・浪江町:休日ランチができるような楽しめる場所がない。



○成人にも娯楽があるといい

新地町・相馬市:娯楽があるといいなと感じる。

·楢葉町:

どこに行くにも移動に1時間程度はかかるため、自分の趣味が十分にできないと聞く。

·葛尾村:

村に体験したい、食べたいと思えるものがないと、村外からの人も足を運ばない。

·川内村:

村内だと楽しみが少ない。小6の子供が外に買い物に出たいと言われる。 土日も村内で楽しく過ごせると良いなと思う。

·葛尾村·田村市:

週末は郡山など、外に出る。

·川内村:

整体、アロママッサージのような場所があると嬉しい。 仕事や家庭などいろいろなストレスから解放される癒しの場が欲しい。 →参考データ51~52ページ 住宅の家賃、地価



〇賃貸物件が不足している

- ・双葉町・大熊町: 町内に民間の賃貸住宅が少ない。
- ·新地町·南相馬市·楢葉町·広野町: ファミリータイプのアパートが少ない。
- ・川内村:
 ファミリー層に焦点が当たっており、単身者や高齢者向けの仕様ではない。

〇家賃や土地の価格が高い

- ・新地町・相馬市・南相馬市・大熊町: 他の地域と比較して民間アパートの家賃が高い。
- ・川**俣町**: 震災の影響でアパートや土地の価格が高騰したままで、下がらない。



→参考データ**43**ページ 移住人口の推移



〇防犯面で不安

・相馬市・浪江町・双葉町・川内村・葛尾村: 街灯が少なくて夜道が暗い。



震災後帰還が遅れたことで、コミュニティが崩壊し、周囲に知り合いが少ないといった 治安面等が課題と感じる。女性が1人で暮らすには不安要素がたくさんある。

〇コミュニティに溶け込んでいない移住者もいる

・飯舘村:交流促進イベントを開催しているが、なじんでいるかは微妙。

·大熊町:

新たに始まったイベント情報は移住者だけでなく、帰還者にも積極的に届ける必要がある。

·葛尾村:

子育て世代は一緒にレクリエーションをしたり交流を図っているが、 単身の場合は孤立しているかもしれない。

·南相馬市:

移住者との交流に参加する人はいつもメンバーが固定。

また、避難元に住所を置いたままの方は、避難元のコミュニティに重きを置いている方もいるため、コミュニティ形成に苦慮している行政区長もいる。

·浪江町:

移住者は、なじめなくて帰ってしまう人もいる。なんとなく移住組と震災前からいた組となりがち。28



→参考データ44ページ 高齢者の単独世帯数の推移



〇福祉的視点、見守りや相談体制が必要

·南相馬市:

震災当時20代後半〜30代前半だった、地域を支える世代が少ない。 福祉関係の支援策があっても、支援者となる介護人材、保育人材が不足。 また、社会福祉士をあてにする支援策が多すぎる。介護、精神疾患、ソーシャル関係、 成年後見、虐待などすべてカバーする必要がある。

·田村市:

都路では、子育て世代が便利なところに引っ越し、高齢者が多く残っている。 地域内で支えあったり、民生委員の見守りがあるものの、見過ごしてしまうケースもある。 見守りをする近隣サポーターシステムもあるが、何かあったときに全体的にサポートできる仕組み が必要。都路は面積が広いエリアのため、効率的に見回れないことも課題。

·川俣町:

最近は災害も多く、地域のつながりで助け合える体制があるか不安に感じる。 ぽつんと一軒家に住む人もいる。地域のつながり、見守りなど不十分かもしれない。

·田村市:

介護保険、子育てどちらのケースでも特に困っているのは、周りに頼れる人がいない場合。 例えば介護保険の際、一度病院で診察を受ける必要があるが、家族も県外に住んでいて1人 で病院に行けない場合どうするかという問題が発生する。

子育てだと共働きで迎えが遅くなるケースもあると聞いている。相談場所の設置について議会などに提案できると良いと考えている。

→参考データ**42**ページ 男女別転出入人口



〇男性の意識改革が必要

·富岡町:

自身の世代では、家事は夫婦で折半という考え方は希少。男性の意識改革が必要。 ニュースで見たが、家事の分担を可視化できるアプリがあるようで、可視化してみると良いか もしれない。

・いわき市:

男性も家事・育児・介護について自分事としてとらえる社会になってほしい。 女性進出が進んでも家庭内が変わらないとつらい。女性が休まらないのは問題である。

·川俣町:

男性はバリバリ働き家事育児は女性が全部やるケースが多く、役場も最近になってやっと女性課長が誕生するなど、男女共同参画の意識が芽生えてきたところ。

先日ニュースになった「人口戦略会議」の消滅可能性自治体のニュースでは、若い女性の人口減少率が78%とトップの推計結果が出ていた。女性が住みやすくて働きやすい町にするための取組、女性に着目した施策が必要ではないか。

<番外編> F-REI女性職員ヒアリング



OF-REI周辺に関するヒアリングを実施

<交通関係>

- ・電車の本数が少ないのは不便。
- ・仙台空港に電車でアクセスできるのは良い。
- ・スマモビやタクシーが遅い時間まで対応してくれるとありがたい。

<道路関係>

- ・朝は多少混む。抜け道があるかもしれないが、狭いところが多く、6号線以外は通りにくい。
- ・側溝に反射板がついてないこともあり、夜の運転は少し怖い。
- ・浪江は道幅が狭い。バックしないとすれ違えない部分もある。

く買い物関係>

- ・イオンの品ぞろえは凝った料理をするには少し物足りなさがある。(小葱や薬味がないなど)。
- ・毎週買い出しの時間的コストがかかる。
- ・イオンの移動販売は週2回。もっと回数が増えると嬉しい。
- ・コンビニが24時間営業であると大変ありがたい。





<番外編> F-REI女性職員ヒアリング



<娯楽関係>

- ・同じ年頃の女性とかかわる機会があまりない。
- ・日曜日に空いているお店が少ない。
- ・ファミレスがないため、1人でも気楽に行ける飲食店があると嬉しい。
- ・ジムなど体を動かすところも少ない。

〈安全関係〉

- ・街灯が少なく、夜暗くて怖い。深夜になると後ろを見ながら帰宅する。
- ・物件を探した時、2階の部屋やオートロック物件の選択肢が少なかった。若い女性のためには防犯の観点から2~3階の物件があると嬉しい。

<総じて満足している模様>

- ・自然が豊かなところや、地域住民との交流の場が多いなど、この地域ならではの魅力がある。 浪江での生活を楽しんでいるため、総じて不満を感じている訳ではない。
- ・浪江の暮らしに概ね満足。実家も不便な地域だったため、浪江が不便とは感じない。
- ・道がすいていて、車通勤は楽。自分の時間が取れる。
- 東京にいた時より時間的なゆとりがあり、せわしなさは軽減している。



参考データ集

人口推移 · 将来推計

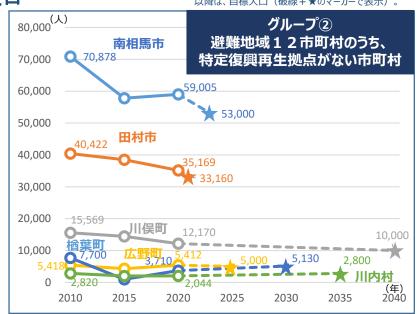


- ・新地町、相馬市、川俣町、いわき市などは、2010年から人口が横ばいから減少傾向にあり、今後も、全国の趨勢にそった人口減少が想定されている。
- ・南相馬市や田村市、は2010年と比較して大きく人口が減少しており、今後も人口減少が続くことが想定されている。
- ・広野町は、概ね2010年時点の人口と同程度に回復しているが今後は緩やかに人口が減少していくと想定されている。
- ・双葉郡の町村は、今後の帰還や移住・定住を見込んだ目標人口が設定されている。

■ 15市町村の人口推移(2010年以降)と目標人口

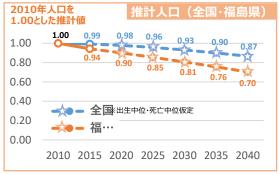
※グラフ中の数字は、2020年までは、国勢調査人口の実績値。 以降は、目標人口(破線+★のマーカーで表示)。













実績人口

推計人口(国立社会保障・人口問題研究所)

●国勢調査(H22,H27,R2年度)

全 国:日本の将来推計人口(平成29年推計)

福島県:日本の地域別将来推計人口』(平成30年推計)

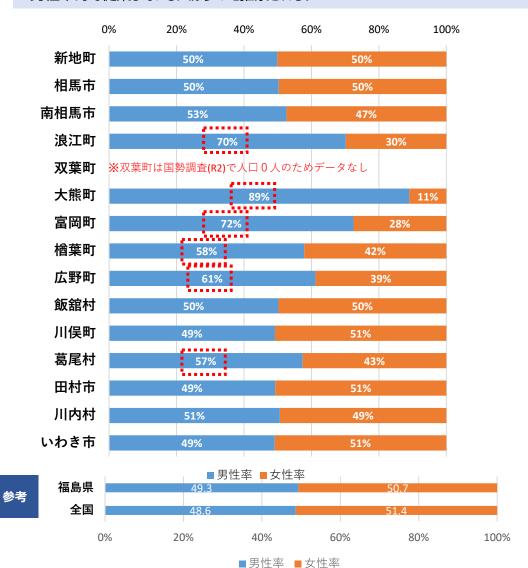
目標人口

グループ	市町村名	目標年	出典資料名
グループ・定再点る町村の大学のでは、	富岡町	2025年	富岡町災害復興計画(第二次)(2015.6)において、富岡町復興まちづくり計画(2014.3)の目標人口を引用
	大熊町	2027年	大熊町第二次復興計画改訂版(2019.3) ※大川原周辺1,400人、大野駅周辺2,600人
	双葉町	2030年	双葉町復興まちづくり計画(第三次) (2022.6)
	浪江町	2035年	浪江町復興計画(第三次)(2021.3)において、まち・ひと・しごと創生 浪江町人口ビジョン(2016.3)の目標人口を引用
	飯舘村	-	飯舘村第6次総合計画(2020.9)に目標人口の記載なし
	葛尾村	2021年	葛尾村総合戦略(2020.3改訂(2年間期間延長))
グループ ②:① 以外の 避難地 域12 市町村	南相馬市	2023年	南相馬市復興総合計画後期基本計画(2019年度~2022年度)(2019.3)
	田村市	2021年	田村市第1次総合計画後期基本計画(2015.2)
	川俣町	2040年	川俣町振興計画後期基本計画(2017.7)において、川俣町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン(2016.1)の目標人口を 引用
	広野町	2025年	広野町町勢振興計画(2016.3)
	楢葉町	2030年	楢葉町町勢振興計画(2021.3)
	川内村	2035年	川內村第 5 次総合計画(2018.3)
	いわき市	2030年	第2期いわき創生総合戦略(2021.3)より、2030年の展望人口 2 (自然動態及び社会動態の回復を想定)
	相馬市	2030年	相馬市人口ビジョン第2.0版(2020.5)より、2030年の相馬市将来展望
	新地町	2030年	第2期 新地町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン及び総合戦略(2021.3)より、2030年の将来目標人口

男女別人口(2020年)



- ・大熊町では、男性の人口割合が9割近くとなっており、富岡町や浪江町でも、7割を超えている。
- ・男性単身で従業している人が多いと推察される。



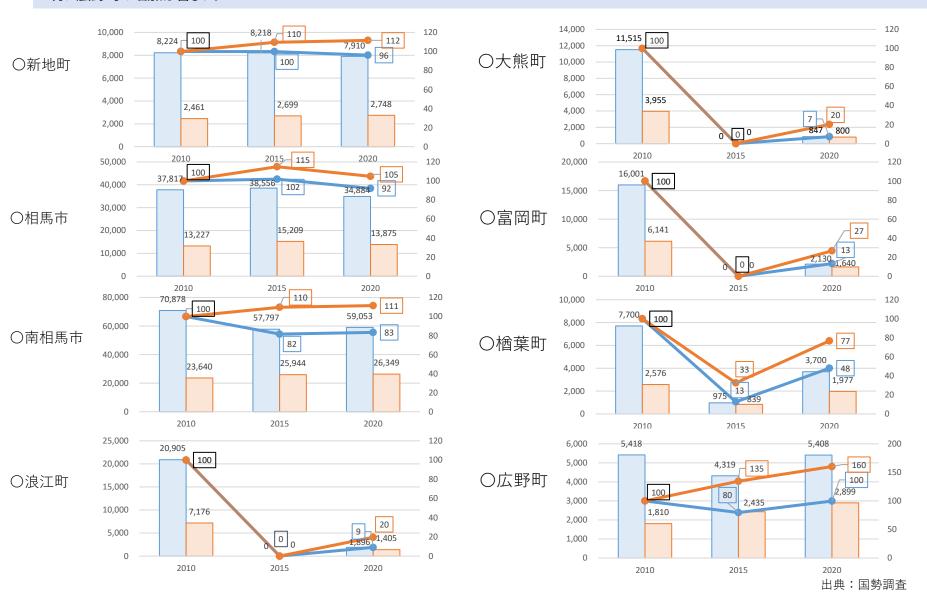
市区町村名	総数	男	女
新地町	7,905	3,945	3,960
相馬市	34,865	17,536	17,329
南相馬市	59,005	31,015	27,990
浪江町	1,923	1,350	573
双葉町	-	-	-
大熊町	847	754	93
富岡町	2,128	1,542	586
楢葉町	3,710	2,147	1,563
広野町	5,412	3,311	2,101
飯舘村	1,318	662	656
川俣町	12,170	5,986	6,184
葛尾村	420	241	179
田村市	35,169	17,320	17,849
川内村	2,044	1,035	1,009
いわき市	332,931	163,525	169,406
	1,833,152	903,864	929,288
福島県	1,055,152	303,00	0 = 0, = 0

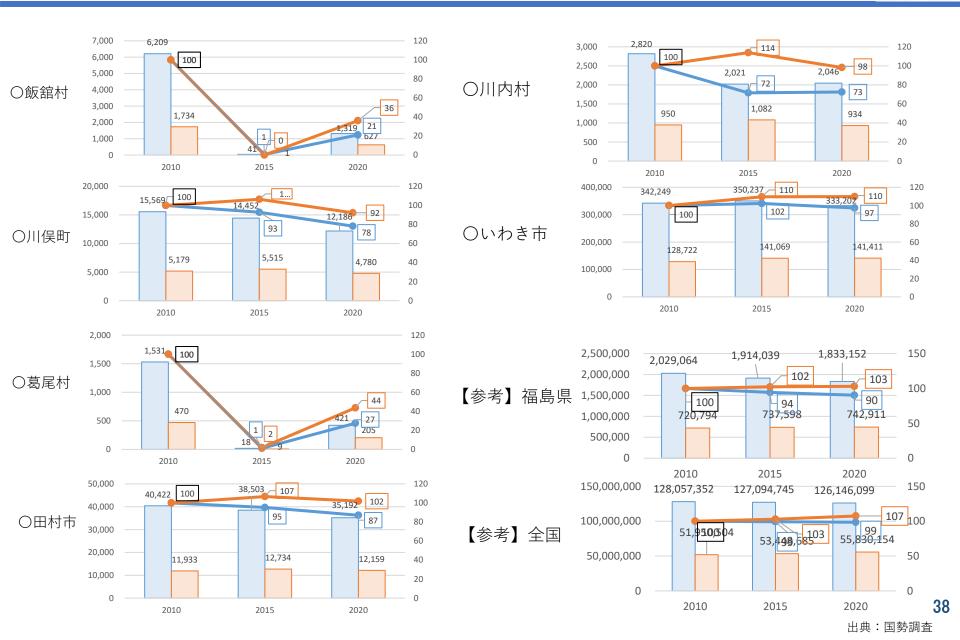
男女別人口の実数(人)

15市町村の人口と世帯数の推移



- ・震災前と比べ人口はすべての市町村で減っているものの、世帯数については、市部及び広野町・新地町で震災前に比べて増加している。
- ・特に広野町の増加は著しい。



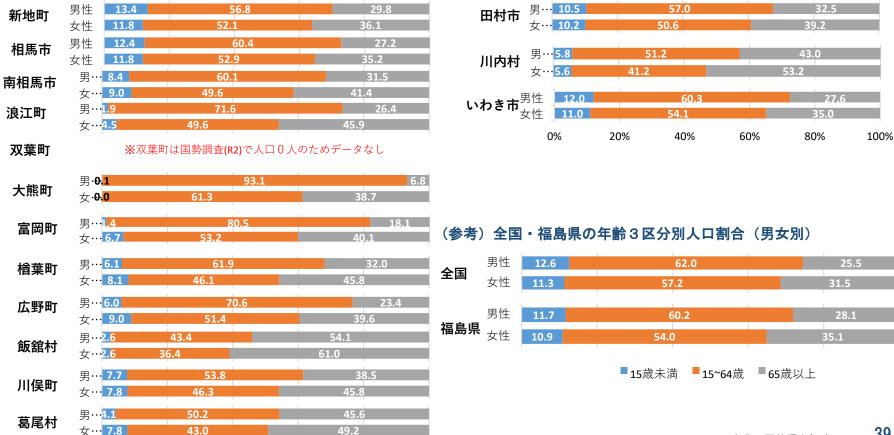


年齢階層別人口(2020年)



- ・15歳未満の人口割合は、特に浪汀町・大熊町・富岡町・飯舘村において著しく低い割合となっている。
- ・15~64歳人口についてみると、全ての市町村で女性の同人口の割合が低く、双葉郡はとりわけその傾向が強い。
- ・65歳以上人口についてみると、全ての市町村で女性の同人口の割合が高く、飯舘村、葛尾村、川内村は約5~6割と非常に高くなっている。

15市町村の年齢3区分別人口割合(男女別)



年齡3区分別人口(2020年)【実数】



市町村名	男女別	15歳 未満	15~ 64歳	65歳 以上	男女別計	計	市町村名	男女別	15歳 未満	15~ 64歳	65歳 以上	男女別計	計	
新地町	男	528	2,242	1,175	3,945	7.005	広野町	男	198	2,339	774	3,311	5,402	
	女	469	2,063	1,428	3,960	7,905	ルン主があり	女	189	1,080	832	2,101	3,402	
10E+	男	2,180	10,591	4,765	17,536	24 965	24.06E %E ◆☆++	8后全京 北北	男	17	287	358	662	1,318
相馬市	女	2,052	9,170	6,107	17,329	34,805	34,865 飯舘村	女	17	239	400	656	1,318	
南相馬市	男	2,597	18,636	9,782	31,015	59,005	川俣町	男	461	3,221	2,304	5,986	12 170	
日では日本	女	2,531	13,877	11,582	27,990	39,003	川沃叫	女	484	2,866	2,834	6,184	12,170	
浪江町	男	26	967	357	1,350	1,923	1,923 葛尾村	节日++	男	10	121	110	241	420
	女	26	284	263	573			る厇仢	女	14	77	88	179	420
大熊町	男	1	702	51	754	847	m++=	男	1,811	9,880	5,629	17,320	25 160	
	女	-	57	36	93	047	847 田村市	女	1,819	9,026	7,004	17,849	35,169	
富岡町	男	21	1,242	279	1,542	2,128 川内村	111-4-4-4	男	60	530	445	1,035	2.044	
角凹凹	女	39	312	235	586		女	56	416	537	1,009	2,044		
楢葉町	男	132	1,329	686	2,147	3,710		男	19,662	98,669	45,194	163,525		
	女	127	720	716	1,563		いわき市	23	13,002	30,003	13/13 1	103/323	332,931	
注:双葉町についてはデータなし。							女	18,598	91,574	59,234	169,406			

出典:国勢調査(R2)

女性有業率と共働き世帯数の推移



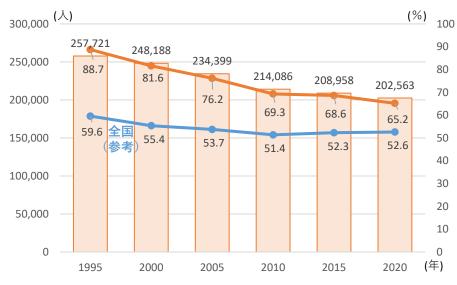
- ・福島県の女性有業率は、震災後大きく落ちこみ、全国を下回ったが、以後、全国の傾向と同様、上昇を続けている。
- ・婚姻世帯数に占める共働き世帯の割合は、福島県において、全国を上回っている。

■ 女性有業率の推移



出典:就業構造基本調查

■ 共働き世帯の数、婚姻世帯に占める 共働き世帯の割合の推移(福島県)

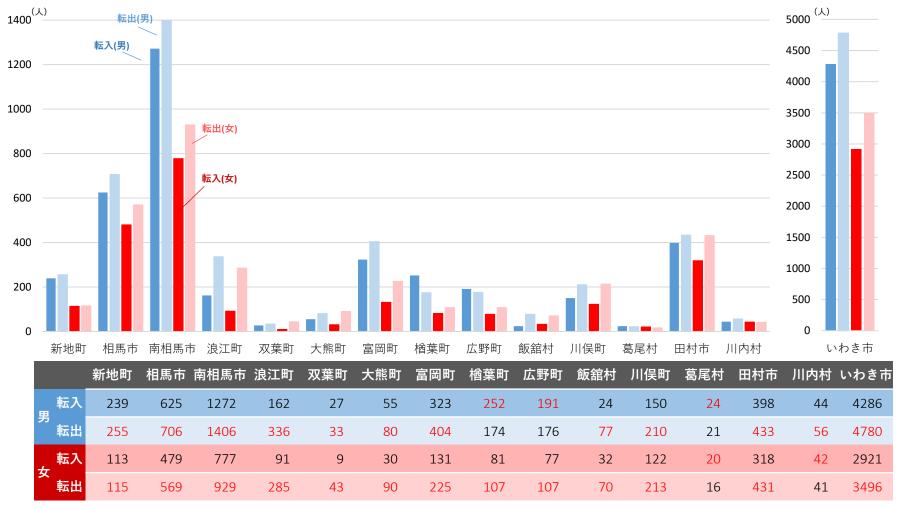


出典:国勢調査

男女別転出入人口(令和4年)



- ・男性は、浪江町、大熊町、富岡町、飯舘村、川俣町において著しい転出超過。楢葉町、広野町、葛尾村において転入超過。
- ・女性は、浪江町、双葉町、大熊町、飯舘村、川俣町において著しい転出超過。葛尾村、川内村において転入超過。



※性別ごとに、転入数/転出数のうち、大きい方を赤字で表記

■ 移住人口の推移(定住 - 二地域居住) (参考) 都道府県別の移住希望地ランキング

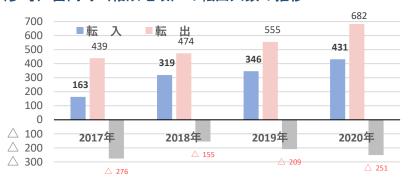




※相双地域…新地町、相馬市、南相馬市、飯舘村、浪江町、双葉町、 大熊町、富岡町、楢葉町、広野町、葛尾村、川内村、田村市

※いわき地域…いわき市

(参考) 富岡町(相双地域)の転出入数の推移



全国的な動向

ふるさと回帰支援センター(東京)移住希望地ランキング(2016年、 2023年)

※(ふるさと回帰支援センター(東京)への相談者・セミナー参加者、複数回答) n=回答件数

	2	2016年				
順	位	県名	İ			
14	立	山梨県				
21	†	長野県				
31	立	静岡県				
41	<u> </u>	広島県				
51	立	福岡県				
61	立	岡山県				
71	立	大分県				
81	立	新潟県				
91	立	長崎県				
10	位	宮崎県				
11	位	高知県				
12	位	栃木県				
13	位	鹿児島県				
14	位	愛媛県				
15	位	富山県				
16	位	神奈川県				
17	位	群馬県				
18	位	熊本県				
19	位	福島県	IJ			
20	位	秋田県				
n = 6, 777						

2023年							
順位	相談	順位	セミナー				
1位	静岡県	1位	群馬県				
2位	群馬県	2位	愛媛県				
3位	栃木県	3位	和歌山県				
4位	長野県	4位	新潟県				
5位	宮城県	5位	長野県				
6位	福岡県	6位	高知県				
7位	北海道	7位	広島県				
8位	山梨県	8位	福島県				
9位	山口県	9位	北海道				
10位	広島県	10位	静岡県				
11位	和歌山県	11位	佐賀県				
12位	福島県	12位	富山県				
13位	富山県	13位	岩手県				
14位	神奈川県	14位	栃木県				
15位	千葉県	15位	熊本県				
16位	岐阜県	16位	岡山県				
17位	熊本県	17位	香川県				
18位	兵庫県	18位	宮城県				
19位	鹿児島県	19位	山口県				
20位	茨城県	20位	石川県				

n = 8.164 n = 10.070

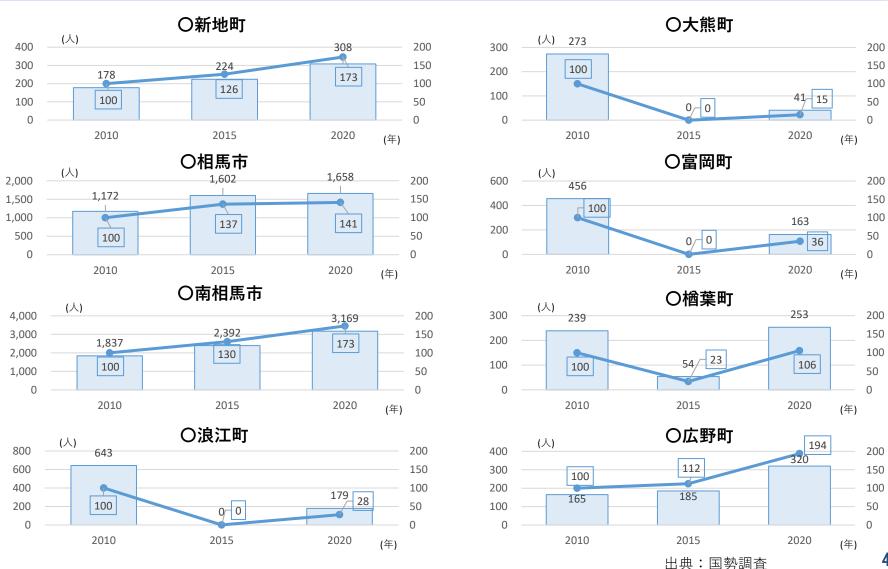
出典:(左上グラフ)福島県 移住世帯数・移住者数(定住・二地域居住)、(左下グラフ)福島県統計年鑑、(その他)NPO法人 ふるさと回帰支援センター HP

高齢者(65歳以上)の単独世帯数の推移

※棒線(左軸)=実数、青線(右軸)=2010年の数字を 100とした指数。 双葉町はデータなし。



・新地町、相馬市、南相馬市、広野町、川俣町、田村市、いわき市において、震災前からの伸び率が全国平均を上回っている。



高齢者(65歳以上)の単独世帯数の推移

※棒線(左軸)=実数、青線(右軸)=2010年の数字を 100とした指数。 双葉町はデータなし。

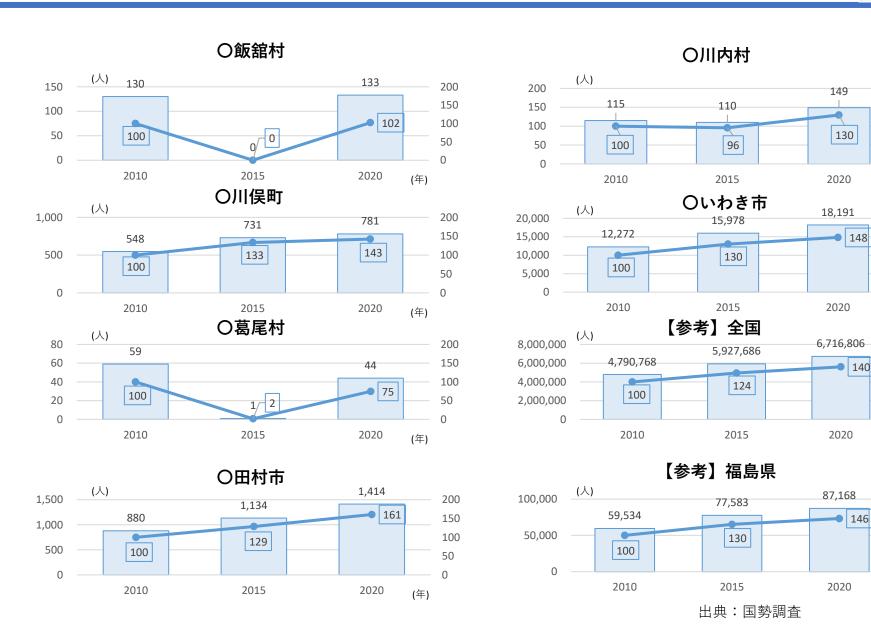


(年)

(年)

(年)

(年)



15市町村の児童生徒数

相馬市

南相馬市

川俣町 広野町 田村市



- ・小学校は、大熊町5人、葛尾村12人と児童数が少ない。中学校は、大熊町2人、葛尾村3人、双葉町9人と生徒数が少ない。
- ・高等学校は、いわき市を除くと、相馬総合が553人、次いで相馬が453人、原町が449人、ふたば未来学園が405人となっている。



各市町村の学校数、児童生徒数

	小学	₽ 校	中等	学校	高等学校(県立)			
	校数	児童数	校数	生徒数	校数	休校	生徒数	
新地町	3	407	1	209				
相馬市	9	1,824	4	925	2		1,005	
南相馬市	12	2,045	6	1,116	3		1,091	
川俣町	1	351	2	247	1		46	
飯舘村	1	51	1	17		1		
浪江町	1	27	1	12		2		
双葉町	2	29	1	9		1		
大熊町	1	5	1	2		1		
富岡町	1	35	1	21		1		
楢葉町	1	127	1	44				
広野町	1	154	1	110	1		405	
葛尾村	1	12	1	3				
川内村	1	51	1	19				
田村市	11	1,529	6	812	1		280	
いわき市	62	15,604	38	8,041	14		6,603	
計	108	22,251	66	11,587	22	6	9,430	

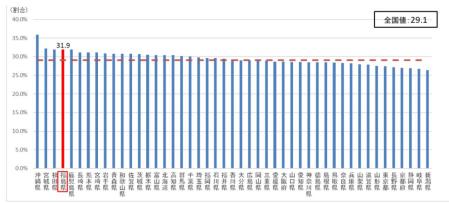
出典:福島県「浜通り地域の児童生徒数」(令和4年5月1日) 福島県「県立中学、高等生徒数」(令和4年5月1日)

メタボリック・シンドローム、肥満度



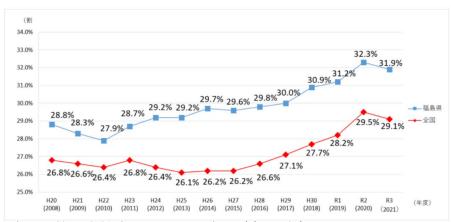
- ・福島県はメタボ割合が全国4位。子供の肥満度も高い。
- ・メタボ該当者は年々増加傾向にあり、福島県内では相双地域のメタボ比率が高く、次いでいわき地域が高い。

○メタボリックシンドロームの割合(令和3年度)



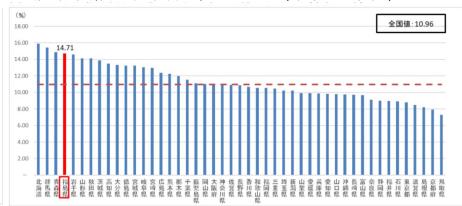
出典:第三次健康ふくしま21計画(令和6年)

○メタボリックシンドローム該当者の推移



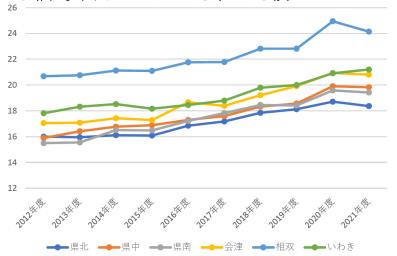
出典:第三次健康ふくしま21計画(令和6年)

○肥満度傾向児出現率 小5(令和3年度)



出典:第三次健康ふくしま21計画(令和6年)

○福島県内のメタボ比率の比較



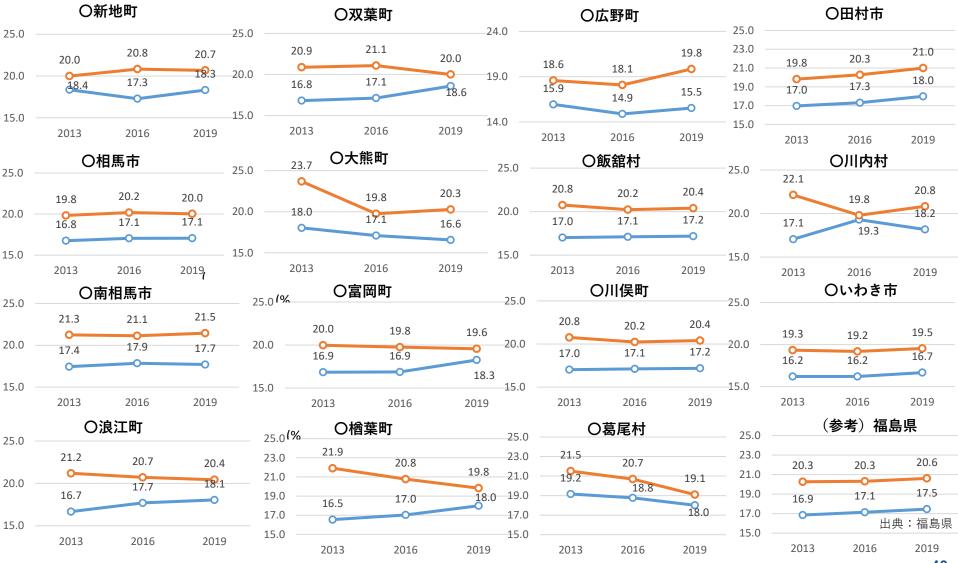
出典:福島県版健康データベース

お達者度指数(オレンジ線=女性、青線=男性)

※ お達者度指数は、福島県が算定しており、65歳時において、 「日常生活動作が自立している期間の平均」のことを指す。



- ・南相馬市や川内村において、男女ともに、お達者度が比較的高い。
- ・相馬市、いわき市、広野町において、お達者度が比較的低い。特に、広野町男性において指数が低い。 ※縦軸単位:(%)、横軸単位(年)



買物環境に関するアンケート



○震災後、買物で「地元の商品を選んで買物をしている」

- ・相双ブロックにおいて、買い物環境が「不満」「やや不満」と回答された方の割合が最も高く、約5割となっている。
- ・いわきブロックにおいて、買い物環境が「不満」「やや不満」と回答された方の割合が最も低く、約3割となっており、「満足」「やや満足」と回答された割合が最も高く、約5割となっている。
- ・震災後、地元の商品を選んで買い物をしていると答えた人の割合は、相双ブロックで最も低く、約10%となっている。いわきブロックが続いて低く、12.9%となっている。

○ブロック別居住地の買物環境の満足度の割合

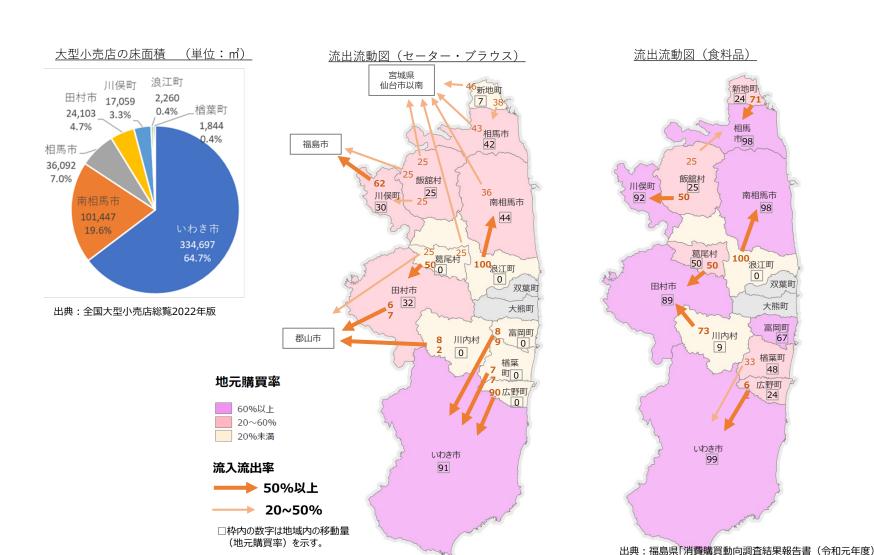
と答えた人の割合 全体 16.6 図満足している □やや満足している □どちらとも言えない 図やや不満である 図不満である いわき 12.9 S 11.4 SS // 15.7 19.3 22.3 相双 10.3 19.0 19.4 XX 12.5 XX X 14.1 XX 10.5 🖔 29.8 24.0 会津 23.5 Ø 10.3 Ø 27.2 24.8 県南 18.8 相双 6.6 18.9 25.0 30.6 県中 17.5 16.8 X 10.4 19.8 いわき 33.5 県北 15.4 22.5 % 14.2 W XX 13.3 XX 30.1 19.9 60% 5 25 (% 10 15 20

出典:第17回福島県消費購買動向調査(令和元年度)

地元購買率と買物流入流出率



- ・買回性の高い「セーター・ブラウス」については、いわき市への流出の他、郡山市、福島市、県外の仙台市への流出がみられる。
- ・最寄性の高い「食料品」は、相馬市、南相馬市、川俣町、田村市、いわき市等においては地元購買率が高く、隣接する町村からの流入もみられる。



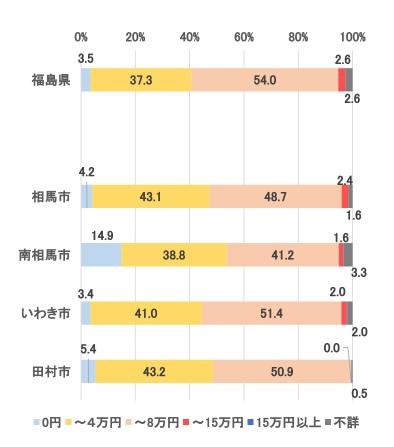
住宅の家賃



(円)

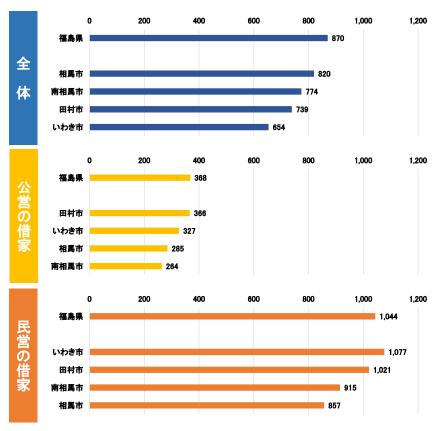
- ・相馬市、南相馬市、いわき市、田村市の4市における住宅の1か月当たりの家賃(平均)は、4万円以下の割合が県水準よりの高い割合となっており、8万円以上の割合が比較的少ない。特に、南相馬市は、0円の割合も高く、8万円以上の割合が低い。
- ・住宅(借家)の延べ面積 1 ㎡当たりでみると、公営・民営のいずれの場合も、いわき市、田村市は福島県平均と同程度であるが、相馬市・南相馬市 はやや低い水準となっている

■ 1か月当たりの家賃(住宅の平均)



■ 延べ面積1㎡当たりの家賃(住宅の平均)





(注)住宅・土地統計調査は市区及び1.5万人以上の町村が対象

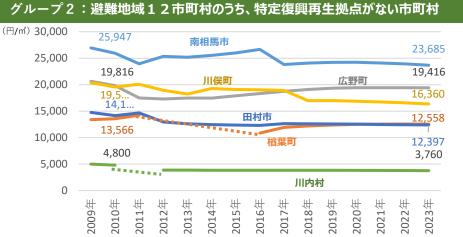
地価



- ・近年の地価総平均は各市町村ともおおむね横ばいである。
- ・相馬市や飯舘村、浪江町、富岡町などは、2010年頃と比較すると地価総平均は低い状態が続いている。
- ・いわき市の地価総平均は、2013年頃から2019年ごろにかけて上昇を続けており、2010年頃よりも高い水準になっている。

■ 各市町村の地価総平均の推移







- ※地価総平均=公示地価、基準地価の総平均
- ※飯舘村、葛尾村、川内村は基準地価平均、大熊町、双葉町はデータなし ※データ欠損年は破線で表示

出典:土地代データ(https://tochidai.info/)



復興・創生 その先へ